

令和4年12月8日

伊仙町議会議長 前 徹志 殿

総務文教厚生常任委員会
委員長 佐田 元

委員会調査報告書

本委員会に付託された事件は、調査の結果、次のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告します。

記

事件の番号	件 名	調査の結果
	閉会中の所管事務調査 「学力向上、世界自然遺産登録・観光対策の取り組みに関する調査」	別紙報告書 のとおり。

令和4年第4回伊仙町議会定例会

総務文教厚生常任委員会委員長報告（所管事務調査）

＜学力向上、世界自然遺産登録・観光対策の取り組みに関する調査＞

総務文教厚生常任委員会で実施した閉会中の所管事務調査について、令和4年11月15日から11月18日に事務局を含め7名で秋田県秋田市において学力向上に係る取り組み、秋田県藤里町において世界自然遺産登録における取り組み、観光対策や課題についての調査・研修を行いましたので、ここにご報告申し上げます。

秋田市役所において学力向上に係る取り組みについて説明いただきました。

秋田市の概要として、平成9年度より中核市となっており、人口約303,000人、学校数は、小学校41校、中学校24校の計65校、児童生徒数は、小中学校約19,700人、教職員数は、小中学校約1,420人、指導主事数は、指導総括が1人、各教科担当が10人、ICT活用担当が1人、生徒指導専任が1人、特別支援担当が2人、健康教育担当が1人、^{しょくいん}食育担当が1人、入学前の子ども達との連携を図るための幼稚園・保育園担当が1人の計18人であるとのことでした。

秋田市でも少子化が進んでおり、現在学校の適正配置化を進めているとのこと、今年度をもって、中学校3校が閉校になるとのこ

とでした。

秋田県の学校教育の目標としては、「志を持ち「徳・知・体」の調和がとれた子どもをはぐくむ教育の充実」を掲げているとのことでした。目標を達成するために、指導主事に対し「徳・知・体」に順番性や重要性の違いはないが、三輪車をイメージし、「徳」にあたる部分が三輪車の前輪でありハンドルの部分とし、後輪二つが「知」であり「体」である。子どもは一人一人能力も個性も違うので、進むスピードに違いは出るが、前輪のハンドル部分である、「徳」の部分にあたる方向性がしっかりしていれば、時間は違えど、必ず子どもたちが全員正しい方向に向かっていく。このようなイメージを持って、学習指導にあたるように指導されているとのことでした。

また、学習指導の充実として、「わかった」「できた」を実感し、「もっと学びたい」につながる授業を、目指す授業のイメージとし、確かな学びの基盤として、子どもたちが安心して学習に取り組み、自信を持って思いや考えを表現することができるよう、「自己決定の場を設定する」、「自己存在感を持たせる」、「共感的な人間関係を育成する」、生活指導の機能を生かした授業が大切だと考えているとのことでありました。

秋田市独自の具体的な取り組みとして、一つ目に、学校訪問を実施し指導を行っているとのことでした。その中には、計画訪問と要請訪問といわれる訪問があり、計画訪問として、各学校の管理職である校長先生、教頭先生、各校務分掌のリーダーから、学校経営に関する説明を聞き、その後、すべての学級の授業を指導主事が参観しているとのことでした。また、指導主事以外にも、県内の大学教授、^{じゆん}准教授を教科の指導員として、^{いしよく}委嘱した学校現場の先生を教科等指導協力員として訪問してもらい、参観後の分科会において様々な視点からの助言をいただいているとのことでした。

要請訪問として、各学校からの要請に応じて、指導主事等が校内研修会や、授業研修会に参加し、指導助言を行っているとのことであり、最近では教科化された道徳や、^{ギガ}GIGAスクール構想によって導入されたタブレットの活用方法等の ICT に関する要請が多いとのことでありました。

二つ目に、教職員研修を実施し指導を行っているとのことでした。中核市への移行に伴い、平成 12 年度に県から研修権の^{いじょう}委譲を受け、平成 14 年度から秋田市独自で研修を行っているとのことでした。今年度は全 63 講座を開催し、各教科の専門研修、ICT活用推進講習

会や全市一斉^{いっせい}授業研究会等を実施し、先生方一人一人の授業力向上を図っているとのことでした。

三つ目に、学力調査等の活用とのことで、全国学力・学習状況調査、基礎学力調査の調査結果の分析や、「学習指導改善^{ほうさく}の方策」、「基礎学力調査に基づく授業改善のポイント」という資料を作成し、各校への配布、また、秋田市の調査結果概要をホームページ上で公表をし、子どもたちの学習状況の把握、学習指導の改善・充実を図っているとのことでした。

また、秋田県では家庭学習ノートというものがあり、市販のノートに児童・生徒が自由に課題を決め、その課題に取り組む宿題があるとのことでした。

本町においても、更なる学校訪問や教職員研修における内容の充実、学力調査の結果分析の実施を行い指導の徹底を図ること、宿題等の工夫をしていく必要があると感じました。

次に、秋田県藤里町役場において世界自然遺産登録における取り組みや、観光対策・課題について説明いただきました。

藤里町では、1993年に白神山地が日本第1号の世界自然遺産として登録されており、原始的なブナ天然林が世界最大級の分布で生い

茂り、日本の世界自然遺産の中で唯一国立公園ではない場所である
とのことです。森林生態系保護地域、自然環境保全地域として指定さ
れており、原生的な天然林の保存、保全することが重要な地域である
とのことでした。

ゾーン別の利用の現状として、核心地域は、人手を加えず自然の推
移に^{ゆだ}委ねる地域であり、基本的にツアーはなく、整備をすることがで
きない地域であるとのことでした。^{かんしょう}緩衝地域は、核心地域の自然環
境に影響を及ぼす行為のクッションとする地域であり、ツアーにつ
いては、青森県^{にしめやむら}西目屋村等が主体となり行っているとのことでした。
周辺地域は、持続可能な利用と保全の両立を図る地域であり、観光バ
スによるツアーが行われているとのことでした。しかし、利用よりは
保全の意味合いが強く、法律でも整備されておらず利用しづらいの
が現状であり、冬季閉鎖期間があることや、林道へ入るための許可証
が必要であること、国立公園ではないことから予算がつきづらく、ア
クセス道の崩壊等があった際に、整備が進みづらいことが課題であ
るとのことでした。

観光については、エコツーリズムの考えで行っているとのこと
であり、エコツーリズムとは、自然環境の配慮をしつつ、観光・産業

を結び付けたものであるとのことでした。具体的には一番目に「ブランディング、規格化や商品化サービス」。二番目に「マーケティング、旅行商品やサービスのPRや販売」。三番目に「受入れ・おもてなし、エコツーリストが来て消費する」。四番目に「還元・再投資、地域資源や人材にフィードバックする」。これらを循環させることであり、藤里町においては、四番目の還元・再投資を今後進めていくとのことでした。

本町においても、ロードキルの発生防止、環境保全・保守の徹底、また、エコツーリズムの考えを参考に、観光対策を講じていく必要があると感じました。

最後に、今回の先進地視察研修を通し、地理的な要件や状況はそれぞれ異なった部分はありませんでしたが、大変意義のある研修でありました。私たちの徳之島も、世界自然遺産登録されたことで、より世界から注目を集めることとなります。町執行部の皆さまにおかれましても、よりよい町づくりの道しるべとなるような行政運営をお願いし、当委員会における閉会中の所管事務調査報告といたします。

令和4年12月8日
総務文教厚生常任委員会
委員長 佐田 元